

二〇一九年度 第72回冬休み良書推薦運動

# 読書感想文コンクール表彰式

令和2年3月7日(土)  
サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会  
協賛 岩手県学校生活協同組合  
後援 岩手県小学校長会  
岩手県学校図書館協議会  
岩手県PTA連合会

式次第

- 一 開式のことば
- 二 主催者あいさつ
- 三 賞状並びに記念品授与
- 四 審査報告
- 五 来賓祝辞
- 六 作品朗読  
宮古市立田老第一小学校 五年 花輪 駿 弥
- 七 感想発表  
花巻市立矢沢小学校 二年 赤坂 晃 和
- 八 閉式のことば

審査員

大石善弘先生	近藤澄江先生	齋藤英明先生	畠山明美先生	藤村由美先生	田代五月先生	大淵奈実先生	永井臣之介先生	杉浦美香子先生
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------

二〇一九年度 第72回

冬休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

「」は図書名

〈最優秀賞〉

じぶんの力でがんばるぞ

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立土淵小学校

一年 金森 一花

にじ色は、ぼくのみかた

『まほうのじどうはんばいき』

花巻市立矢沢小学校

二年 赤坂 晃和

やってみたいな、こんなこと

『もしも宇宙でくらしたら』

宮古市立田老第一小学校

三年 高橋 聖翔

地球を守るためにわたしができること

『プラスチックプラネット』

洋野町立中野小学校

四年 粒来 夏帆

ラグビー憲章を生かして

『ラグビーが教えてくれること』

宮古市立田老第一小学校

五年 花輪 駿弥

素直で優しい人に

『ラグビーが教えてくれること』

宮古市立山口小学校

六年 川戸 綾乃

〈岩手県小学校長会長賞〉

カメラちゃんのよう

『ぞくぞく村の魔法少女カメラ』

盛岡市立桜城小学校

一年 海原 杏々実

うちゅうのくらしはちよつと大へん

『もしも宇宙でくらしたら』

軽米町立晴山小学校

三年 古館 透和

ラグビーから学んだこと

『ラグビーが教えてくれること』

宮古市立田老第一小学校

五年 田村 昇龍

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

ゆうかんじゃなくてもいいんだよ『ゆうかん？ねこくろすけ』

花巻市立宮野目小学校

一年 高橋 綾香

プラスチックの光とかけ

『プラスチックプラネット』

盛岡市立中野小学校

四年 小野寺 朝妃

ラグビーを日常生活に生かす

『ラグビーが教えてくれること』

盛岡市立土淵小学校

六年 吉田 歩

〈岩手県PTA連合会長賞〉

がんばったねタミー 「こぶたのタミー はじめてのえんそく」

洋野町立中野小学校 二年 粒 來 明 莉

力を合わせることの大切さ 『大パニック！よみがえる恐竜』

栗石町立七ツ森小学校 三年 佐々木 陽 呂

つながり

『アヤカシさん』

久慈市立宇部小学校 五年 滝 澤 光 来

〈優秀賞〉

「まほうのじどうはんばいきをよんで」『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立緑が丘小学校 一年 佐藤 優 真

わたしはわたしをすきでいたい『ぞくぞく村の魔法少女カルメラ』

宮古市立山口小学校 二年 花坂 明 香

相手をおもうということ

『聴導犬こんちゃんくれた勇氣』

盛岡市立高松小学校 三年 瀧 田 茉 白

聴導犬こんちゃんくれた勇氣 『聴導犬こんちゃんくれた勇氣』

軽米町立晴山小学校 四年 古館 和 華

教室は戦場

『おくらいろの季節』

一戸町立奥中山小学校 五年 釜石 知 奈

自分と向き合い続けること

『HIMAWARI』

宮古市立山口小学校 六年 佐藤 心 音

〈入選〉

あめとキヨウリユウとゆめ

『めをとじてみえるのは』

盛岡市立見前南小学校

一年 小原紗知

がんばれトリケラトプス 『恐竜トリケラトプスとゴルゴサウルス』

盛岡市立本宮小学校

二年 西里真希

自どろはんばいきはあなたのみかた? 『まほうのじどろはんばいき』

宮古市立田老第一小学校 二年 田村幸生

ポイスて問題

『プラスチックプラネット』

宮古市立崎山小学校

三年 祝田優

プラスチックって便利だけれど 『プラスチックプラネット』

宮古市立山口小学校 四年 箱石香乃

友情を大切に

『さくらいろいろの季節』

宮古市立山口小学校

五年 濱田未來

〈学校賞〉

宮古市立田老第一小学校

〈学級賞〉

・宮古市立宮古小学校

2年1組

・宮古市立田老第一小学校

5年

〈佳作〉

ありがとうピロロリン

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立杜陵小学校

一年 佐々木 杏

プットとこんかいもじけんをかいけつ

『おしりたんでい』

北上市立黒沢尻東小学校

二年 鎌田 真由

「タミーのチャレンジ」

『こぶたのタミー はじめてのえんそく』

盛岡市立北厨川小学校

二年 櫻田 真尋

「あなたのみかた」はんばいき

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立土淵小学校

二年 八重樫 翔

こぶじさんの成長

『ねこのこぶじさん』

北上市立黒沢尻北小学校

三年 尾形 宗一郎

相手の気持ちを考えて

『しろくまジローはすもうとり』

盛岡市立仙北小学校

三年 田中 奏太朗

プラスチックで地球があぶない

『プラスチックプラネット』

盛岡市立土淵小学校

四年 吉田 航

二人を結ぶ

ヒマワリ

『HIMAWARI』

宮古市立田老第一小学校

五年 館崎 百奏

ぼく達がやらなければならぬ事「AIのサバイバル」  
宮古市立田老第一小学校 五年 佐々木 凜太

じぶんの力でがんばるぞ

盛岡市立土淵小学校 一年

金 森 一 花

まほうのじどうはんばいきってなんだろう？空をとんだり、へんしんができるとか、そんなまほうがつかえるのかなとおもって、わたしは、この本をよみはじめました。

ここに出てくるはんばいきは、しょうひんの見本もお金を入れるところもなく、ボタンだけ。そして、にじいろで、「あなたのみかた」というなぞのことば。わたしなら、こわくてボタンはおせないし、ママをよんできます。こうへいはゆう気があるなあ。

このはんばいきは、ほしいものや、ひつようなものが出てくるまほうみたいなはんばいきでした。だから、たのしみにしてわくわくするこうへいの気もちがよくわかります。もし、わたしがボタンをおしたら、なにが出てくるのかなあ。チェキのカメラかなあ。とびばこがとべるようになる手ぶくろとかいいなあ。そうぞうするだけで、たのしくなります。

でも、こうへいが、これさえあれば、なんでもできるよいうな気がしてきたぞ、とか、あたまがはんばいきのことでいっぱいになっていて、わたしは、しんぱいになってきま

した。だって、それはじぶんの力ではないからです。おかあさんがボタンをおしてはんばいきがきえて、こうへいはないてうらんだけど、おかあさんもしんぱいしていたとおもいます。

だから、さいごのにじのばめん、わたしはジーンとしました。こうへいが、あのままはんばいきにたよっていたら、ひとりじゃなんにもできないダメなおとなになっていただろう、さいごまでほくのみかたでいてくれたんだね、と気がついたからです。

わたしは、早おきがにが手です。いまはママにおこしてもらっています。でも、このままママにたよっていたら、ひとりで早おきできないと気づきました。だから、これからは、めざましどけいとじぶんの力で、ひとりで早おきできるようながんばろうとおもいました。

(図書名『まほうのじどうはんばいき』)

### 〈講評〉

どんなまほうかなと思いつながら本を読み始めたことが伝わりました。まほうが使えればほしいものが手に入ります。この本は、「こんなものがほしいな。」を楽しみながら読むことができます。「花さんが考えた」とびばこがとべるようになる手ぶくろ」は私もほしいと思いました。いいアイデアですね。

その上、最後には自分の力でがんばることの大切さにも気づいています。題名にもその気持ちがしっかりと表現されていました。素晴らしいです。

にじ色は、ぼくのみかた

花巻市立矢沢小学校 二年

赤坂晃和

ぼくは、自どろはんばいきやガシャポンが大すきです。何が出てくるか分からないドキドキする楽しみがあるからです。

学校の帰り道に、こうへいくんがみつけたにじ色の「あなたのみかた」と書いてあるまほうの自どろはんばいきは、ボタンをおすとほしいものが出てくるふしぎなはんばいきでした。こんなはんばいきがあつたら、ぼくもすぐにボタンをおしてしまふと思います。ほしいゲームきやマンガ、その時自分にひつようなものが出てきたすけてくれるなんて、ゆめみたいで、すごくいいなあと思つてわくわくして読みました。

毎日が楽しみになつたこうへいくんの前から、とつぜんまほうの自どろはんばいきがきえてしまつた時は、ぼくもびつくりして、こうへいくんと同じかなしい気もちがして、はんばいきをけしてしまつたお母さんをうらんでしまつたけど、それにはりゆうがあることが分かりました。

こうへいくん、まほうの自どろはんばいきと出会つて楽しかつたね。いつもたすけてくれるからずつとそばにいて

ほしかつたけど、とつぜんきえちやつたのは、たよつてばかりいたら、ひとりじゃ何もできないだめな大人になつてしまふからだつたんだね。ぼくも考えてみたけれど、ほしいものがかんたんにどんどん手に入るなんてゆめみたいでうれしいことだけど、それならクリスマスマスのサンタさんもたん生日プレゼントだつていらぬ。そう思つたらとくべつな日も楽しくないし何だかつまらない気もちがしたよ。それからぼくは、はやく走れるくつがほしいと思つたけど、それは本当の自分の力ではないので、がんばつてれんしゆうをしようと思つたよ。

にじ色の自どろはんばいきは、ぼくのみかたにもなつてくれたような気がします。

(図書名「まほうのじどろはんばいき」)

### 〈講評〉

主人公と気持ちを重ねて、わくわくしたり悲しんだりしながら読み進めていったことが伝わる文章でした。「こんな自動販売機があつたら」と考へながら読み進めていったのも、この物語にびつたりです。

また、「何でも手に入るようになったら特別な日の楽しみがなくなる。」という考へには共感できました。主人公もこんなお手紙が来たら元気がでますね。ただ、お手紙の部分とその前後の文の文末がそろつていませんでした。手紙の部分を「」で囲むと文末がそろつた文になります。文末をそろえることにも意識を広げてみましょう。題名と最後の文がびつたりと重なつているところはお手本になる書き方です。



やってみたいな、こんなこと

宮古市立田老第一小学校 三年

高橋聖翔

「もしも宇宙でくらしたら……。どんなすごいことができるのかなあ。」ほくはドキドキとワクワクが止まらなかつた。

ほくが宇宙でくらしたらやってみたいことがある。

めざまし時計を止めてみたい。宇宙では、めざまし時計が使えない。ボタンをぐいっとおしたら、地球とちがつて自分がとばされてしまう。きつとほくは、かべとかべの間をスーパーボールみたいにずつとバウンドし続けるにちがいない。天井にもとどくのかな。

着がえは、服が体につかないから、うかせたシャツにとびこんで着がえられる。ポーンと投げた服にとびこめるなんて、なんだかスーパーヒーローの変身みたいだ。かっこいいから、ほくもやってみたい。

これらは、宇宙には重力がなくて、体がうくから、できるんだって。そして、かべをおすとはね返る力で自分がとばされる。だから宇宙に行けば、だれでもスーパーヒーローになれるんだ。

だったら、宇宙でならほくが苦手な鉄ぼうやとび箱も軽々とできるかもしれない。地球でのほくは、何回練習しても、ちつともうまくなれない。もう無理かなと思う時もある。でも、宇宙で試したら、一発で何でもできそうだ。とび箱七だん、側転二十回、さか上がり五回。オリンピックのせん手みたいになれるはず。

宇宙じゃ、もつと便利なこともある。ほくは、よく物を落とすけど、宇宙だったら落とした物もうかび上がってくる。拾う手間がはぶけるぞ。

でも、欠点もあるみたいだ。何でも「すぎれば、欠点になる。シャツのすそをしまつてないと、めくれ上がっておへそが丸見えになるらしい。宇宙では、何でもうかび上がってしまうので、シャツのすそがめくれ上がってしまう。ほくは、よく「シャツのすそが出てくるよ。」って注意される。このままじゃ、宇宙じゃかっこ悪いやつになってしまう。もしも宇宙で生活するなら、絶対ズボンにシャツをしまわなくちゃ。

地球ではできないことが宇宙ではできて、反対に、宇宙ではできないことも地球ではできることがわかつた。そう思うと、なんだかワクワクする。

きつとほくが大人になるころには、宇宙へ旅行に行くことは当たり前前で、宇宙ステーションに住む人も出てくるかもしれない。そのころには、水も使えるようになってくるかもしれない。水を使うことができないから、おふるに入ることはできないけれど、二十年後くらいには外の星をながめながらおふるに入ることができるようになるかもしれない。今日も夜空の星たちをながめ、無重力の中でういたまま寝ることを想ぞうしながらねむりにつこうと思う。

(図書名「もしも宇宙でくらしたら」)

### 〈講評〉

聖翔さんの、ドキドキワクワクとともに、宇宙でくらしたらやってみることが、とてもよく伝わってくる感想文でした。無重力の中の着がえや、鉄ぼうやとび箱運動を、スーパーヒーローやオリンピック選手にたとえている表現力もすばらしいです。

宇宙のくらしを知ることで、地球だからできることにあらためて気づいている様子から、聖翔さんが、想像力をうんと働かせながらこの本を楽しく読んだことが分かりました。

## 地球を守るためにわたしができること

洋野町立中野小学校 四年

粒 來 夏 帆

わたし達の身の回りには、プラスチックせい品があふれています。手をのばし、さわった物がプラスチックといつてもいくらいです。プラスチックは、とても軽くて便利な物です。そんなプラスチックをへらそうという取り組みが世界的に話題になっていることを新聞やニュースで知りました。わたしは、なぜ、この便利な物をへらそうとしているのか、プラスチックの何が問題なのかわしく知りたくてこの本を手に取りました。

プラスチックの最大の欠点は、「分解しない」ということです。プラスチックは、数千年も分解することがなく、そのままのじょうたいで残るので、長期にわたるかんきょうおせんの原因となるのだそうです。

そのかんきょうおせんで、海洋生物にもひがいをあたえています。海洋生物は、食料とまちがえたり、プラスチックがからまつたりして、とても苦しんでいます。死んでしまうこともあります。もしかしたら、

「わたし達の海をよごさないで!!」

と人間をうらんでいるかもしれない。わたしだって、夕飯に、「これを食べて。」とプラスチックを出されても、ぜっ対に食べません。プラスチックを食べたら、死んでしまいます。しかし、実際に、死んだアホウドリの胃の中から、数百ものプラスチックへんが発見されていると知り、ショックを受けました。

このようなかんきょうおせんによる問題をなくすには、わたしは、

リサイクルが大事だと思えますが、プラスチックのおよそ90%がリサイクルされていないのです。多種類のプラスチックは分別してからでないとりサイクルできないし、新しくプラスチックを作る方が、コストが安くすむため、リサイクルりつが低いのです。つまり、回収されてもきちんとリサイクルされないし、かんきょうおせんにつながってしまいます。しよ理がうまくできないなら、プラスチックを使わないことが大切だと思いました。積極的にマイバックを持つていくことやプラスチックせい品を買わないこと、プラスチックせい品やポリぶくろをことわることなどが、プラスチックのゴミを少なくする第一歩だと思います。

動物たちがわたし達人間が作り出したプラスチックのせいで命を落としてしまうなんて、あつてはいけないことだと思えます。一人ひとりが自分の問題として真剣に考えなければいけない問題なのです。

このような現状を変えていくためには、「わたし達の地球はわたし達が守る」という強い意志で一人ひとりが行動をおこすことが必要だとわたしは考えます。そのために、まず、わたしがやったことは、自分のバックにマイバックを入れたことです。さらに、家のゴミ箱の数をへらし、ポリぶくろをはずしました。他にもプラスチックゴミをへらすためにできることを実せんし、地球を守りたいです。

(図書名「プラスチックプラネット」)

## 〈講 評〉

新聞やニュースを見てき間に思ったことについてくわしく知るために、この本を手にとったという夏帆さん。きつとふだんから、本を使って調べたり読書を楽しんだりして、本となかよしなのだろうと感じました。

プラスチックごみが地球の生き物や環境にあたえている問題をしっかりと知った夏帆さんだからこそ、「一人ひとりが自分の問題として真剣に考えなければいけない」という夏帆さんの言葉が心に響いてくる感想文でした。

ラグビー憲章を生かして

宮古市立田老第一小学校

五年

花輪駿弥

「ラインアウト、やってみようか。」

ぼくのクラスで行われたラグビー教室でのこと。釜石シーウエーブスの現役選手が先生として、ぼく達にラグビーを教えに来てくれた。ぼくもジャンパーとなった。リフターをしてくれるのは身長百八センチを超える選手二人。普段ならばリフトされるなんて考えられない。なぜなら、ぼくは運動会の組体操だって、下の方にいて誰かを乗せたり支えたりすることがほとんどだったからだ。身長の高い選手にされるリフトは、これまでぼくが経験したことがないほど高い位置にぼくを運んでくれた。そこにアーモンド状のボールがパスされる。ぼくはしっかりとキャッチし、レシーバーにパスをした。ぼくはその時、自分の足を支えられながら、心までしっかりと支えられた気持ちになった。

ラグビーは品位、情熱、結束、規律、尊重の五つを大切にしているスポーツだという。ぼくがジャンパーとなったとき、下で支えてくれたリフターの二人は、「一人一人が責任をもって自分の役割を果たす」つまり規律を守ることをしてくれた。また、リフトするとき、ぼくがボールを受け取りやすいように高さを調節してくれた。これこそが「規律は思いやり」というところにあてはまるのだなと実感した。

ラグビー教室ではパスの練習もした。パスは後ろの方に出さなければならぬ。でも、ボールを選びたい方向は前の方だ。これを実現させるためには、やはり仲間との結束は必要だと思った。また、

誰にパスするかは、その時々でちがってくるから、どんなパスを出すのがいいのかもその都度ちがってくるだろう。そのときこそ尊重という精神が働くときだと思った。ラグビーボールは球体ではない。うまくキャッチできずに落としてしまうと、ボールは地面で複雑な動きをする。時にそのボールの動きが読めなくて拾い上げることも難しいことだってある。だから相手が確実に受け取れるパスを出さなければならぬ。すると相手の身長や走る速さ等、色々なことを考えて一番適切なのはどんなパスかと考えるようになる。少しの練習時間で、ぼくの練習相手となってくれた友達の特性が分かかってきて、それを尊重したパスが出せるようになった。約四十五分間という短い時間だったが、ラグビー憲章の一部を体験することができた。

ラグビー教室での体験と、ラグビー憲章から学んだことは、これからのぼくの学校生活、そして将来にも同じようなことが言えるような気がする。達成したいことをボールと見立て、仲間と結束しワンチームとなり、規律を守り、前へ前へと運ぶ。決してパスは前に出せないからそのスピードは遅いかもれない。でも、どんな相手も尊重しながら、誠実に努力し続けるなら、確実にゴールできるはず。よし、これからぼくなりの努力、始めるぞ。

(図書名「ラグビーが教えてくれること」)

〈講評〉

現役選手が教えてくれるラグビー教室に参加できたこと、大変貴重な体験をしましたね。そこでの体験とラグビー憲章が見事に結び付けられ、本の主題がしっかりととらえられていると感じました。ラグビー憲章の五つの精神の中でも、規律と尊重に絞って論を進めたことも、自分の感じたことを相手に伝えるのに効果的であったと思います。ラグビーというスポーツの魅力に触れた駿弥さん、これからの生活の中でもラグビーの精神を大切にしながら、「前へ前へ」と進み続けてほしいと思います。

六年 最優秀賞

素直で優しい人に

宮古市立山口小学校 六年

川戸 綾乃

二〇一九年、ラグビーワールドカップ。それまで、ラグビーに興味がなかった私も、熱くなった。選手たちの情熱、仲間を尊重し、協力する姿、ボールをつないでトライしたところを見て、心がゆり動かされた。

「ラグビーが教えてくれること」

この題名から、自分が考えられることは、「仲間」「団結」の二つだった。他にはどんなことを大切にしたら、あんなプレーができるのだろう。この本を読めば、きっとこの先につなげられるだろうと思ひ、表紙を開いた。

この本は、ラグビーを経験してきた人達が、その経験をもとに、人生で大切にしなければならぬことを、私達に教えてくれる本だ。私は、この本を読むまでは、「品位」という言葉を知らなかった。

「品位」という言葉は、「インテグリティ」という英語を日本語にしたものだ。インテグリティという単語には、他にも「誠実」「正直」などの意味がある。正直で、尊敬されるような人を「あの人は品位がそなわっている」というそうだ。私は品位がそなわっていないと思つた。うそをつくことがよくあるし、人からあまり尊敬されないからだ。このとき、うそはもうつかないで正直な人になろうと思つた。この本の中で坂田好弘さんの体験が心に残つた。坂田さんは、高校のときにラグビーを始めて、大学卒業後に初めてニュージールランドに行った。そのカンタベリー大学クラブでプレーすることに なつた。選抜メンバーが発表される時、坂田さんは同じポジション

のオカラハンが選ばれると思つていたが、呼ばれたのは「サカタ」だった。オカラハンが右手を差し出し、「おめでとー」と言つてくれた。私だったら、悔しくて素直に「おめでとー」を言えないと思ふ。オカラハンの行動に、私は素直にすごいと思つた。そして、素直になりたいと思つた。

他の人も、負けたときにどういう態度をとるかということが人として大切だということを感じていると思う。兼松由香さんが講演したときの言葉に、私は納得した。

「だれだつて勝ちたい。でも、負けたときにどういう態度をとるかということが人として大切です。」

自分だったらいじけて拍手などできるか分らない。でも、由香さんの言葉で「一つの行動で、人を感動させられるかもしれない」と思つた。なぜなら、拍手をすれば、皆の心が温かくなり、優しさであふれる、そう思つたからだ。

この本は、人生において大切なことを教えてくれる。私がこの本を読んで考えたのは、何でも素直になることが大事ということだ。素直になれば、優しい行動ができると思うからだ。だから、これから私も素直になつて、尊敬される人になりたいと思ふ。

〔図書名〕「ラグビーが教えてくれること」

〈講評〉

日本中が熱狂したラグビーワールドカップ。綾乃さんもその一人としてラグビーを観戦し、ラグビーのことをもっと知りたくて、この本を手にとつたでしょう。ラグビーとは単に勝敗のみが大切なのではなく、人生において学ばべき多くのことがあることに気付いたのですね。今の自分の生活に置きかえ、品位とは何か、どのような態度で生きることが大切なのか、具体的に考えることができました。気負わず、素直な言葉で表現されており、綾乃さんの誠実さが伝わってくる作品となりました。

カルメラちゃんのように

盛岡市立桜城小学校 一年

かいほら ここみ

「なんてオバカちゃん。あなたは、今のままで、とつてもすてきなのに。」

わたしがこの本をよんで、一ばんころにのこったのは、カルメラちゃんのおかあさんがカルメラちゃんにいった、このことばです。

なぜかというと、「今のままで、とつてもすてき」ということばは、今、わたしが一ばんいってもらいたいことはそのものだったからです。

わたしは、さいきん、まわりの人やかぞくに、「がんばりなさい。かわりなさい。」といわれることがおおくて、じしんをなくしているからです。だから、カルメラちゃんが、このままのわたしじゃダメだとおもって、まじよのオバタンのところにいって、今のじぶんをかえようとがんばったら、おかあさんにそういうふうにいってもらったところでは、カルメラちゃんのうれしさがよくわかって、じぶんのことのようにうれしくなりました。

カルメラちゃんがえらいな、とおもったのは、じぶんがこういうふうになりたいというめあてをきめて、それにむ

けてまっすぐど力をしているところです。おしえてもらったまほうをいっしょうけんめいおぼえようとしているところが、がんばりやさんだなおもいました。カルメラちゃんがどりよくしているから、まわりのオバケちゃんたちもきょう力してくれたんだとおもいます。

わたしは、じぶんにもカルメラちゃんのようにすてきなおところがあるのかなとかがええました。わたしは、ちゅういされるただしよんぼりしてしまうだけです。でも、これからは、カルメラちゃんのようにになりたいじぶんをしつかりきめて、それにむけてどりよくできる人になりたいです。そして、いつか「今のままでとつてもすてき。」とまわりの人にもいってもらえるようにしたいです。

〔図書名〕『ぞくぞく村の 魔法少女カルメラ』

### 〈講評〉

マスいっぱいのおおきな文字。とても読みやすく、ここみさんが感想文に一生けんめいに取り組んだことが伝わりました。

「今のままでとつてもすてき」

元気が出るすてきな言葉を見つけましたね。カルメラちゃんのがんばりによりそって読んでいたから出合えた言葉かもしれません。このすてきな言葉を中心にしてしっかり構成された文章です。主人公のがんばりがここみさんの決意につながったとしたら、とても良い本との出会いだったと思います。

うちゅうのくらしはちよつと大へん

軽米町立晴山小学校 三年

古館透和

ぼくは、この本の題名をみてうちゅうでくらすなんてSFに出てくる話みたいだと思ひ読み始めた。しかし、じつさい読んでみるとSFのようにげん実ばなれした感じではなく、近いしよ来そうなっているんじゃないかと思うような内ようだったので、ぼくはもし、自分がうちゅうでくらすことになったらと想ぞうをかきたてられた。

このお話は、ひかる君がパパの仕事の都合で、うちゅうステーションに引っこし、地球の友だちにうちゅうでのくらしをしようかいていた。今は、うちゅうに行ける人は、きびしいしけんをとっばして、訓練をつんだかざられた人だ。それに、えらばれた人の家族は、いつしよに行くことはできない。うちゅうステーションの仕事から帰ってきた人に家族が、なきながらお帰りと云っているのを、ニュースで見ることがある。ひかる君のお話のもう少し未来には、きびしい訓練を受けなくてもうちゅうに行けるような、ロケットができているのかなと、ぼくは思つた。

ぼくが、ひかる君のうちゅうでの話でいんしようにのこっているのは、うちゅうでのくらしの数々の工夫だ。うちゅうでは、重力がないから、人や食きなどもういてしまふ。だから、うちゅうステーションの中には、つかまるところやこ定するところがあつた。ひかる君は、うちゅうステーションの学校で、運動をしていたけど、ぼくは、体がういてらくちんだから、太るのはかんたんそうだけど、きん肉をつけるのは、大へんそうだなと思つた。

それに、うんこやおしっこは、水はきちようだし、水玉になつて流せないから、トイレがそうじききのようになつていて、うちゅうにはい出されるといふのにびつくりした。部屋がうんこやおしっこであふれないから、そうじききたいなトイレを考えた人は、すごいなと思つた。しかし、すごいと思ふ反面、うちゅうに出されたはいせつ物は、もえてなくなるのだから、でなきや、ポイすてしてようで、いい気分じゃなないなと思つた。

ぼくが、ひかる君がしようかいてくれた中で、なんだか味気ないなと思つたのは、食事だ。うちゅうでは、火が使えないからすでに調理されパックにつめられたものを食べる。えきたいのものは、パックから出すことはできないし、なっ豆などのおいの強いものはうちゅうに持つていけないそうだ。ぼくは、うちゅうで、目で見ごはんを楽しむのはむずかしそうだなと感じた。

ぼくは、この本を読んで、うちゅうに行くなら楽しいことばかり想ぞうしていたけど、不べんなことが多いことを知つた。そして、しげんにめぐまれている今のくらしがつづくように温だん化したいさくなど、自分にできることをやつていきたいと思つた。

〔図書名「もしも宇宙でくらしたら」〕

〈講評〉

宇宙でのくらしはだれもがあこがれをもちます。透和さんは、自分がくらすことになつたらと考えながらこの本を読んだのですね。宇宙でのくらしは、透和さんの「ちよつと大へん」の題名のように、便利にするための大へんさと、地球のくらしとは全くちがう不便さがあるようですね。

宇宙のくらしを知つて、資源にめぐまれた地球のくらしが続くように努力をしようと考えた透和さんに感心させられました。

ラグビーから学んだこと

宮古市立田老第一小学校 五年

田村昇龍

今年日本でラグビーのワールドカップが行われた。ほくの住む町もフィジーとナミビアのキャンプ地になり、フィジーの選手が来たときは学校のみんなが歓迎の出迎えにも出かけた。

バスから降りてきた選手は、どの人も背が高くがっちりとした体格で、一見すると怖い気もした。でも、みんな笑顔を絶やさず、初対面のほくたちにとってもフレンドリーに接してくれた。どの選手もサインに気軽に応じてくれたし握手もしてくれた。その優しさはほくの心の芯にまで染みてきた気がした。

それはラグビー憲章の中の「品位」という部分だと思った。ラグビー選手達は試合後にさっきまではげしく戦った相手チームの選手とサンドイッチやジュースでパーティをするのだそう。ほくなら勝ったときは笑顔で参加できそうだが、負けてしまった後ならとてもじゃないがそんなパーティには参加できそうもない。でも、選手たちはお互いの健闘をたたえ合い友達になるのだそう。ラグビーの殿堂入りをした坂田さんは、高校生時代の監督に「ラグビーはトライした者がえらいのではない」と言われたという。つまり、みんながボールをトライできるようなことが素晴らしいということなんだとほくは思った。だから、トライできるように関わられた人みんながえらいということが分かった。

他にも、ラグビーで危険と思われるタックルも、相手をはじきとばしてしまわないよう最後まで相手をつかんで離さないのだそう。敵なのにも関わらず、そこまで相手を思いながらスポーツをする

るのはすごいと思ったし、試合後のパーティーにも結果に関係なく参加できる秘密があったんだと改めて気づいた。そして、初対面のほく達にフレンドリーであることもよく分かった気がした。

何よりほくが心を動かされたのは、「キャプテン」の章だ。ラグビーで、試合中にプレイ方法を最終判断するのはキャプテンなのだ。そうではない。その理由について、ほくなりに考えてみた。それはきつと練習も試合も、実際に積み重ねてきたのはキャプテンを中心とした選手達だからだろう。常にお互いを思い合い、きびしい練習を共に重ね、勝利するためにどうするか話し合うという日々を送ってきているのは、監督より選手達が一番だろう。キャプテンは選手として、他の選手と一緒にそんな毎日をお過ごしからその信頼がある。だからキャプテンの決定に誰も反対はしない。例えどんな結果になったとしてもだ。

ほくもそんなふうみんなから信頼される人になりたいと強く思った。そのためにほくは、何より今いる仲間を大切に、目の前の出来事に必死で取り組んでいきたい。勉強、そうじ、委員会活動、それと遊びさえも。

（図書名「ラグビーが教えてくれること」）

〈講評〉

何よりも、構成の巧みに驚かされます。実際に海外のラグビー選手と交流した体験を基に、ラグビー憲章の「品位」について読み深め、特に感じ入った元ラグビー選手、坂田さんの話につなげていくあたりが、ひと際上手に書かれています。さらに、ラグビーに特徴的な思いやりのあるプレー、キャプテンの役割など、ラグビーの素晴らしさについて余すところなく書き切ることができました。ラグビーから学んだことを、昇龍さんのこれからの生活にぜひ生かしてくださいね。

ゆうかんじゃなくてもいいんだよ

花巻市立宮野目小学校 一年

たかはし あやか

「ゆうかん」ってどういういみかな。わたしは、このこ  
とばのいみをしらなかつたのでおかあさんにきいてみまし  
た。おかあさんは、

「アンパンマンみたいにゆうきがあつて、どんなことにもた  
ちむかつていつて、よわい人をまもることだとおもうよ。」  
とおしえてくれました。それをきいて、わたしはくろすけ  
はぜんぜんゆうかんじゃなないなとおもいました。だつて、  
くろすけはただねずみをおいかけているだけなんだもん。

この本に出てくるくろすけは、ねずみを見たことがあり  
ません。わたしは、ねこなのにねずみを見たことがないな  
んで本とうかなと、ふしぎにおもいました。けれどそれは  
本とうでした。ハエをねずみだとおもつたり、とりをねず  
みだとおもつたり、ぞうをねずみだとおもつたり、へんな  
かんちがいばかり。ねずみは空をとべないし、たかい木  
の上にだつていないし、ぞうみたいになでつかくれないのに。  
わたしは、こころの中で「くろすけ、まちがつてるよ。」  
とおしえてあげたくまりました。

いよいよくろすけが本もののねずみにあつたとき、くろ

すけはねずみにだまされ、かいぶつをねずみだとまたかん  
ちがいでしてしまいます。しょんぼりしているくろすけを見  
たらわたしはかわいそうにおもいました。だいじょうぶだ  
よ、くろすけ。むりにゆうかんにならなくてもわたしがた  
すけてあげるよつて、くろすけにいつてあげたくなりまし  
た。

くろすけは、ぜんぜんゆうかんねこなんかんじゃな  
いけれど、やさしくてかっこいいねこになつてほしいなと、わ  
たしはおもいます。そしてスーパーマンみたいにみんなを  
たすけてくれるねこになつてほしいです。きょうもくろす  
けは、本もののねずみをかいぶつだとかんちがいして、と  
おくからちよつとだけ見えています。くろすけ、かくれてい  
ないでがんばつてわたしはおうえんしてあげたいです。

（図書名『ゆうかん？ねこくろすけ』）

### 〈講評〉

本のだい名の「ゆうかん？」は一年生にはむずかしい言葉です。お母さ  
んがとでも分かりやすく教えてくださいました。本を親子で会話をしなが  
ら読めるなんてすてきですね。

でも、お母さんの教えてくださった「ゆうかん」とくろすけの行動が結  
びつかず「だいじょうぶかな」と心配しながら読み進めていくあやかさん。  
その姿が想像できて笑顔でこの本を読む度にあやかさんはくろすけの応援  
隊になるのでしょうね。主人公の行動に一喜一憂するのも本を読む楽しさ  
です。この本にびつたりの読み方ですね。



## プラスチックの光とかけ

盛岡市立中野小学校 四年

小野寺 朝妃

ペットボトル・ふくろ・洋服・包装・容器・チューブなど、くらしの中にあふれているプラスチック。私も毎日プラスチックを利用している。おどろくべき多機能性ゆえに「魔法の素材」とも呼ばれたプラスチックが、おそろしい問題を起こしていた。問題を解決するため、地球を守るために何ができるのか、みんなで考えていかななくてはならない。

プラスチックは、どんな形にもなり、軽くて強く、防水性があり、色も自由、様々な質感にできる。便利な物を追い求めた結果、すばらしいものができたのだ。しかし、今、海ではプラスチックごみがふえ続け、海洋生物が次々に死んでいる。海洋生物には、プラスチックとえさを区別できない。胃がプラスチックでいっぱいになって死んでしまったアホウドリの写真を見て、心がいたんだ。人間が殺したと言ってもいい。プラスチックを作った責任を取らなくてはいいないと思った。

中国の揚子江の写真には、おどろきとともに怒りの気持ちがわき出てきた。ごみ処理システムがなく、川に投棄されたプラスチックは千五百万トン。川べりはごみでうめつくされ、ひどい状態。ごみ処理システムを早く作らないと、ますますおせんが進んでしまう。プラスチック対策をしている国々がある。アフリカ諸国では、すでにプラスチックのふくろを完全に禁止している。世界の様子に興味をわき、インターネットで調べてみた。アフリカでは、プラスチックによる災害が起きたために、プラスチックのふくろが禁止になっ

たことが分かった。また、多くの企業でプラスチックをへらす取り組みをしていることや、何種類かのプラスチック製品を禁止している国が多いことも分かった。

日本はどうだろうか。日本は使い捨てプラスチックごみの一人当たりの量が、世界二位。政府は二〇二〇年七月からレジぶくろの有料化することに決めた。日本の企業も少しずつ対策を進めているが、世界から見ると対策がかなり遅れているらしい。東京オリンピックの前に実施することで世界の人たちに環境について考えていることが伝わり、ごみを出さない意識が広まってほしいと祈る。

プラスチックは実に便利である。今はすぐプラスチックがない生活をするのはむずかしいだろう。私ができることは何か。使い捨て製品はできるだけ何度も使う。ごみの分別をする。今ある製品を無駄にせず、大事に使う。プラスチックに代わる物を考える。これらを意識して生活していこうと思う。

地球環境にやさしいバイオプラスチックの開発も進んでいる。でも一番大事なのは、開発にたよるだけではなく、問題が起きている事実を自分に関わりがあることとして深くに受け止めることだと思ふ。プラスチックごみによって、生き物が苦しんだり死んだりすることがない未来になってほしいと私は願う。

（図書名「プラスチックプラネット」）

### 〈講評〉

朝妃さんが、プラスチックのどのようなところが問題になっているのか、世界ではどのような取組が行われているのか、この本をしっかりと読んで、自分の考えを深めていることが伝わってくる感想文でした。人間がつくり出したプラスチックによって、生き物が苦しんだり死んだりすることがないようにしたいという朝妃さんの思い。本当にその通りですね。この本を読んでもった考えや思いを、これからも大切にしていきたいと思います。

ラグビーを日常生活に生かす

盛岡市立土淵小学校 六年

吉田 歩

昨年、日本でラグビーワールドカップが行われた。にわかファンも増える中、ほくもその一人だった。初めは大きな体をぶつけ合い、ボールをうばい合い、何て荒々しく痛々しいスポーツだろうと思っただ。しかし、テレビで知った少しのルールでも試合を楽しむことができた。そして、ラグビーがわかった気になっていた。ラグビーに関わる人達がとても大切にしているラグビー憲章のことなど、全く知らなかった。

ほくは、少年野球をしている。野球の試合では、かんとくの指示（サイン）に従ってプレーする。自分の考えで判断することもあるが、多くはかんとくの指示で動く。ボールの動きから目をはなさないのと同じくらいかんとくの動きを気にしている。しかし、ラグビーはちがう。試合中に、かんとくから指示が出ることはほとんど無い。指示があつても最終的に決めるのは、キャプテンとチームの仲間達。普段の練習や生活を共にし、仲間をよく知り信頼する中で、最善の方法を選びチーム全員で戦う。勝つためにはどうしたら良いか、全員で考え練習を積むからこそチームに一体感が生まれ強くなる。ほく達の野球に足りないのは、「全員で考える」ということかも知れない。かんとくから考える時間を与えられなくても、普段から自分たちで集まって考える。それができれば、強いチームになれるのかも知れない。しかし、言うは易く行は難しだ。逃げ出したくなる心を仲間と励まし合い、協力し合い、助け合つて乗り越えていく。練習した通りに仲間を信じて、助け合つてプレーする。ニュージー

ランドでは、仲間が駄目なことをしたとき、優しくわかり易く指摘し、責めることなく仲間を守り信頼感を深めるそうだ。みんなで作った約束を守り、自分で決めたことをやり通す。失敗を反省し、どうすれば良いか考える。そのくり返しが人を成長させ、チームを強くするのだ。

「規律」とは、人間力を高めること。人間力の中には、目配り、気配り、心配り、思いやり、素直さ、謙虚さ、ひたむきさなどがふくまれる。」と書いてあつた。「目配り、気配り、心配り」これは、普段からよく父に言われている言葉だ。自分の生活の中にも、ラグビーに通じるものがあるのだとおどろいた。ひきょうなことを許さない品位も、情熱、結束、規律、尊重、そのどれもが立派な魅力ある人間になるために大切だと思ふ。素敵な人だと思つてもらえるような人、それが勝利に値する人ではないか。ラグビー憲章を知り、ラグビーの精神を知り、前よりずっとラグビーが好きになつた。ほくも、まわりをよく見て、するべきことを行動で示していきけるような人になりたい。

（図書名「ラグビーが教えてくれること」）

〈講評〉

野球を頑張っている歩さんは、野球とラグビーの違いに着目しながらこの本を読み進めたのですね。ラグビーは、選手一人一人が試合に勝つために必要なことを考えてプレーすることを知り、それをこれからの野球の練習に生かしたいと思つたことが上手に書かれています。また、ラグビーの精神が、実は普段の生活の中にも息づいていることに気付く、人として大切にしなければならぬことを改めて考えたのでしょう。この本から学んだことを生かし、魅力ある人間を目指してくださいね。

がんばったねタミー

洋野町立中野小学校 二年

粒 來 明 莉

タミーはまきちゃんが大すきでこまらせたくないいんだね。本当はいっしょにえん足に行きたかったのに、まきちゃんをこまらせたくなってがまんしたんだよね。

まきちゃんも、いっぱい歩いたり、けがをしたりするとあぶないから、タミーのことを心ばいして「ダメ。」って言ったんだと思うよ。わたしもお母さんのお手つだいをしたいのに、

「あかりにはまだほうちょうはあぶないから、もう少し大きくなってからね。」

って言われるんだ。やってみないとわからないのね。まよっているタミーのことを、ねこのイップがせ中をおしてくれたんだよね。

だけど、イップとタミーがちか道をするってだいじょうぶかなって心ばいしたよ。もし、と中でまよってまいごになつたらどうしよう。あれ、これってまきちゃんの気もちと同じだね。

はじめてのえん足は、いろいろなはっけんがあつて、タミーはとても楽しそうだったね。でも、はじめての森には、

きけんもあつたね。イップが言った、

「自分のことは、自分でまもるんだぞ。」

って言ばがわたしの心の中に強くのこったよ。タミーがへびをふきとばした時は、はじめのころのタミーとはちがつて、ひとまわり大きくなったようにかんじたよ。

タミーとイップがやつとまきちゃんたちと会うことができてあん心したよ。ぬまにおちても道にまよつても、あきらめずにゴールまでたどりついたタミーをかつこいいなと思つたよ。じしんがついたつて、きつとこういうことなんだね。わたしももう一どお母さんに「ほうちょうつかわせて。」

と言つてみるね。やるつてきめたらはんたいされてもあきらめずにちようせんしてみるよ。自分のことは自分でまもるんだよね。やつてみる。

〔図書名〕『こぶたのタミー はじめてのえんそく』

〈講 評〉

タミーの挑戦と自分を上手に重ね合わせて読んでいます。明莉さんの感想文を読んで、子ども達の日々の挑戦とタミーの挑戦はにているんだなと改めて感じました。

手紙の形式で書いているのもいいですね。タミーをおうえんするやさしい気持ちや伝わってきました。後おしする人、見守る人、はげます人。子ども達が一歩前に進む時に必要な要素がこのお話にはつまっています。

最後に「やつてみる。」という言葉で、この本が明莉さんの背中を押したんだなと思えました。

力を合わせることの大切さ

平石町立七ツ森小学校 三年

佐々木 陽 呂

ぼくは、「よみがえる」という言葉が大好きです。何がよみがえるのだろう。どうやってよみがえるのだろう。と考えるだけでわくわくしてきます。だから、「よみがえるきょうりゅう」という題を見たとき、うれしくてたまりませんでした。やっと、ぼくのお気に入りの本を手にしたと思ったからです。

登場人物は、主人公のトビー。頭がよく、特に科学が大好きです。トビーのおさななじみが親友のジャック。想どう力ゆたかで、空想ゲームがとく意です。ちよつと、ぼくにしています。ジャックのお姉さんがサツファイ。いつもきげんが悪いけど、たよりになるお姉さん。

この楽しそうな三人が、きょうりゅうかいぞくだったサウルス船長ののろいをよみがえらせてしまいました。こののろいをとくために、三人は力を合わせていきます。

ぼくが一番の好きな場面はなぞときをするところです。白紙の地図をかい読するときに、ジャックが、

「かいぞくになったつもりで、考えてみるんだ。」  
 と言ったときには、ぼくも想どうが広がって、いっしょになぞときをしている気分になりました。そして、船長の目玉を自分の目につけて、地図が読めるようになったとき、ぼくもいっしょに。

「よし。やったぞ。」  
 とさげんでしまいました。いろいろなことを友達と言いついて、なぞをかいけつしていくことは、すごくおもしろいです。

たしかに、ぼくも、算数の分からない問題を一人でとくよりも、みんなで力を合わせてといたほうが楽しいです。そして、とけたときのよろこびは、一人の時よりも何倍も大きいのです。

二番目に好きな場面は、やはり最後のどくがんのレックスとのたかいです。12メートルもあるきよ大なきょうりゅうがおそつてくるので、はくりよくがあつて、ハラハラドキドキしました。でも、きよ大なきょうりゅうに立ちむかっていたのは、サツファイです。サツファイが一生けんめいたたかたおかげで、さい後のなぞときができたのです。

この場面でも、力をあわせることはとても大切だな。と思いました。もし、三人がかつてな行動をしていたら、ひみつの地図は手に入ることができなかつたと思います。

ぼくは、この三人のように、人に言われたからとかではなく、しぜんに力を合わせるかんけいがある、とてもすてきな思いました。そのようなかんけいをきずくためには、トビーがやっていたように、おたがいのとくいなことをそんちようして、意見を聞いたり、行動したりすることが大切だと気づくことができました。また、同じシリーズの本をたくさん読み、トビー達、三人に会いたいです。

（図書名『大パニック！よみがえる恐竜』）

〈講評〉

「やっと自分のお気に入りの本を手にしたと思った。」なんてうらやましい言葉でしょう。陽呂さんは、きつとふだんから、図書館にはどんな本があるのかなと、本との出会いを楽しみにしていたり、言葉の楽しさを味わって文章を読んだりしているのでしょうか。

この本を読んで、仲間と力を合わせることの大切さについて考えることができました。陽呂さんも、学校で友だちと力を合わせて、学習や生活をがんばってくださいね。

つながり

久慈市立宇部小学校 五年

滝澤光来

「さみしいからつながりたい。声を聞いてくれる人に何かを伝えたい。」アヤカシはそう思っていた。

私はこの本を読んで、つながりについて考えてみた。何かとつながるといえば、インターネットという言葉が思い浮かんだ。私は、スマホもパソコンも持っていないが、ネットは最近少しずつ身近になってきているように感じる。学校で学ぶ機会が増えているから。ネットは、外国などの遠くの人とも簡単につながりを持つことができるようだ。私は、ネットでのつながりとは本当のつながりといえるのだろうかと思った。確かにネットは非常に便利な面があり、沢山の人とつながることができるだろう。しかし、少しの情報だけでつながることはきけんな面もある。本当はどのような人なのか、分からないからだ。だから私は、ネットのつながりは本当のつながりとはちがうのではないかという気がした。

では、つながりとは一体何のことなのだろう。結んだひも……。確かに結んだひもはつながってはいるけれど、ほどこうとすれば、すぐにほどくことができる。ならば、はたしてつながりとは何だろう。と思い、辞書で調べてみた。辞書には「関わり」と書いてあった。なので、今度は私にとって関わりのあるものについて考えてみた。まさきに思いうかんだ言葉が「家族。」家族とは何か。家族とは当たり前のように身近にいる人。でも、本当にそうだろうか。当たり前前のようにいることが普通なのだろうか。私は、家で一人で留守番をした時のことを思い出した。兄弟と一緒に留守番の時でも楽

しく遊んだりして過ごすことができる。でも、一人なら……。一緒に遊んでくれる人もいない。何だか心細く、とてもさみしい気持ちになった。どうしてだろうと思った。

今ならアヤカシの気持ちがなく分かる気がする。さみしいからつながりたい。声を聞いてくれる人に何かを伝えたい。そうだ。あの時の私は、いつもさみしいアヤカシのように、だれかとうながりたかったのだ。だからアヤカシは、声を聞いてくれる人に今の思いを伝えようとしているのだ。これがつながりなのだ。つながることの大切さに初めて気がついた。そしてつながりとは、結んだりほどこいたりできるひものようなものではないのだ。

今までの私なら、つながりを持ちたくない人はいますかと聞かれたら「はい」と答えていたかも知れない。でも、つながりの大切さを分かった今ならばきつと「いいえ」と答えるだろう。だれかとうながりを持たなければ生きていけないからだ。

人もものも時間も、必ずみんな何かとつながっている。だから、そのつながりを大切にして、どうしてつながったのかの意味を考えながら生活していきたい。

（図書名『アヤカシさん』）

### 〈講評〉

「アヤカシさん」という不思議な題名をもつこのお話が伝えたかったことは何なのか、よく考えながら読みましたね。丁寧な書き方から、アヤカシさんを通して人と物のつながりの大切さ、かけがえのない家族についてじっくり考えたことが伝わってきました。ネットの世界での、人と人のつながり。それは、果たして本当のつながりと言えるのかどうか、冷静な目で見つめることができた光来さん。本当の心のつながりを大切にしながら生きていくてくださいね。

## 審査を終えて

第七十二回冬休み良書読書感想文コンクールには、三十七校、百十九人の児童から応募がありました。今年度の夏のコンクールに比べると、約三十作品ほど応募が増えており、じっくり読書に取り組み、感想をまとめることができた冬休みだったと思われず。

審査会では、夏休みより、さらに上手に書けるようになったという報告がありました。また、自分が感じたことを伝えようと、最後までしっかりと書き上げた作品が多く寄せられたことを大変嬉しく思いました。

各学団の審査で話題になったことをまとめました。

### 【低学年】

一、二年生は、原稿用紙二枚という規定枚数の最後まで書き上げていた作品が多く見られました。特に一年生は長い文章を書く経験があまり多くない中、本当によく頑張りました。感想を膨らませるためには、心に残ったことをいくつか思い出したり、自分の経験と比べたり、よく考えなければなりません。何度も本を読み返しながらかきまとめたことでしょうか。最後まで頑張りぬく力が見事でした。

### 【中学年】

中学年も、原稿用紙三枚いっぱい自分の考えを書いている作品が多く、夏よりさらに力を付けていると感じました。組み立てもよく練られており、それぞれの感じ方や考え方が伝わりやすい書きぶりになっていました。元氣いっばいの中学年らしく読書の楽しさやワクワク感が伝わる表現にも引きつけられました。自分と比べながら感想を深めている作品が多く見られました。

### 【高学年】

高学年は、個性的な感想が目立ちました。本の内容と自分の経験を重ね合わせたり、自分に引き寄せて考えたりしながら心

につくり上げてきた感想は、その子自身のものとなっていました。また、丁寧に感想をまとめながら自分自身の心を耕していく過程が感じられる作品は読み応えがありました。さらに、高学年では随所に表現の工夫が見られました。短文を重ねたスピード感のある書きぶりからは、書き手の思いが強く伝わってきました。

### 【課題点】

全体を通して、今後気を付けてほしい点があります。

・本から離れすぎることがないように書きまとめること。(生活文・意見文との違い)

・書く前の構想段階を大事にして、適切な組み立てにすること。(はじめ・中・終わり、形式段落、意味段落)

・表記の仕方に気を付けること。(原稿用紙の使い方)

さらに、感想文をよいものにするために次のことにも挑戦してみよう。

・感じ方の微妙な違いを文末で書き分ける。

「……気がつきました。」「……想像もしていませんでした。」「……と思ってもいませんでした。」「……驚きました。」「……想像をかきたてられました。」「……という気持ちが大きくなりました。」「……心にくつとききました。」

ほんの一例ですが、このように文末を工夫すると、豊かな感想文になります。

・推ここの仕方を工夫する。

書き上げた感想文を声に出して読むと言葉の続き方の悪い点に気がきます。すらすら読めない時には直したほうが良いところがあります。また、少し時間をおいてから読むと新たに気付くこともあります。

次は夏休みのコンクールとなります。次回も一人一人が心の中につくり、育てて書き上げた感想文を読ませてもらうことを楽しみにしています。

審査員 田代 五月

たくさんのおうぼ  
ご応募、ありがとう。  
次も、お友だちをさそってトライしてね。



## 次回予告

### 令和2年度夏休み良書推薦運動 第73回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 ・岩手県小学校長会 ・岩手県学校図書館協議会  
・(一社)岩手県PTA連合会
- 4 課題図書 2020年「夏休み良書推薦運動」  
学年・学団対象24冊・学年共通6冊 計30冊 (5月下旬案内開始予定)  
※上記以外の図書、学団(低・中・高)ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 用紙・字数 ・1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内  
・3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内  
・1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文  
鉛筆は、B以上の濃さのもので書く。  
・課題図書名は1枚目の枠外に縦書きで明記
- 6 応募作品 一人1点 (県下小学校児童)  
応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。  
(他のコンクールとの二重応募は認めません)  
・応募作品は、理由を問わず返却しません。(必要な場合はコピーをお取り下さい)  
・応募作品の著作権、版権は主催者に帰属します。ただし、本人および在籍学校内での利用は妨げません。  
・応募要項・課題図書名・前回までの上位入賞作品は学校生協ホームページで確認できます。  
・応募された方の氏名・学校名・学年・感想文の題名・対象図書名および作品、表彰式の様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ、刊行物、取材報道等で公表することがあります。
- 7 応募締切 2020年9月4日(金)当日消印有効
- 8 応募先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5  
岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内  
「読書感想文コンクール係」  
TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞・岩手県学校図書館協議会長賞・  
岩手県PTA連合会長賞・優秀賞・入選・佳作・努力賞・  
学校賞・学級賞